

第 60 期
中 間 報 告 書

(2019年4月1日から)
(2019年9月30日まで)

fligan

愛眼株式会社

証券コード 9854

株主の皆様へ

株主の皆様には、日ごろより格別のご支援を賜り誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

さて、当社は2019年9月30日をもって第60期第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）を終了いたしましたので、ここに事業の概況をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善等を背景に緩やかに回復しているものの、米中貿易摩擦の長期化や中国経済の減速懸念、日韓関係の悪化など海外の政治・経済情勢の不確実性や金融資本市場の変動による影響に加え、消費増税後の個人消費への影響も懸念され、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、お客様からの支持・信頼の獲得に焦点を当てた営業戦略と経営資源の効率的な活用を進め、収益基盤の強化に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、眼鏡小売事業の既存店売上が前年同四半期比0.9%減と若干前年を下回り、売上高は8,399百万円（前年同四半期比1.7%減）となり、また、売上総利益率は、主に品種別の売上構成比の変化の影響で0.5ポイント上昇しました。一方、経費面では、新店開発、自社物件の店舗の建て替えや大型改装投資等の経費が嵩む要因があったものの、経費コントロールの徹底を図り、広告宣伝費、人件費、賃料などの圧縮に努めたことで、販売費及び一般管理費は5,514百万円（前年同四半期比1.5%減）となり、売上高販管費率は0.1ポイントの上昇に止まりました。この結果、営業利益は274百万円（前年同四半期比11.2%増）、経常利益は305百万円（前年同四半期比1.7%増）となりました。しかしながら、特別損失として減損損失25百万円を計上したため、親会社株主に帰属する四半期純利益は196百万円（前年同四半期比0.0%減）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

【眼鏡小売事業】

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として永年培ってきた快適で安心な視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービスの全てが結集した「愛眼ブランド」の競争優位性の強化に取り組んでおります。

商品につきましては、「目の健康」をテーマとして、幅広い年齢層のお客様の多岐にわたるニーズに対応した快適で機能的な高付加価値商品を開発することで、品質・価格の両面で競争力があり、お客様満足度の向上に繋がる安心でお買い得

な商品の品揃えを充実させ、マーチャндаイジングによる販売促進と各種広告媒体を通じた情報発信に努めてまいりました。

売上高につきましては、主に競争激化により低価格帯のメガネの販売数が減少したことに加え、日照不足の日が増えるなど天候不順によるサングラスの不振によって売上減となったものの、消費税増税前の駆け込み需要があり、若干の減収に止まりました。

店舗につきましては、2店舗を新規に出店し、3店舗を閉店いたしました。また、1店舗で店舗建て替えを行い、4店舗で既存店の活性化改装を実施いたしました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は8,044百万円（前年同四半期比1.8%減）、セグメント利益は327百万円（前年同四半期比6.6%増）となりました。

【眼鏡卸売事業】

眼鏡卸売事業につきましては、取引先に対する新商品の投入や販売支援に努めるとともに、新規取引先の開拓に取り組んでおります。

この結果、売上高は240百万円（前年同四半期比2.4%増）となり、セグメント利益は2百万円（前年同四半期はセグメント損失0百万円）となりました。

【写真館事業】

愛写館3店舗を営む写真館事業につきましては、人生の節目節目の記念日を感動的で素敵な思い出にできる豊富な撮影メニューを揃えるほか、家族の着物レンタルの無料オプションが付いた「七五三前撮り&秋の外出着物レンタルキャンペーン」や卒業式袴レンタル予約会を実施するなど集客に努めてまいりましたが、競争激化により厳しい状況が続いております。

この結果、写真館事業における売上高は39百万円（前年同四半期比13.4%減）、セグメント損失は41百万円（前年同四半期はセグメント損失36百万円）となりました。

【海外眼鏡販売事業】

海外眼鏡販売事業につきましては、中国での競争環境が引き続き厳しい状況にあるなか、愛眼のPB商品やメイド・イン・ジャパン商品の品揃えの強化による集客力アップに努め、採算面の改善に取り組んでおります。

この結果、売上高は75百万円（前年同四半期比0.5%減）、セグメント損失は5百万円（前年同四半期はセグメント損失6百万円）となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご厚情を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2019年12月

代表取締役社長 下 條 三千夫

企業集団の財産及び損益の状況

区 分	第57期 (2017年3月期)	第58期 (2018年3月期)	第59期 (2019年3月期)	第60期(中間) (当連結累計期間) (2020年3月期)
売 上 高(百万円)	15,957	16,344	16,231	8,399
経 常 利 益(百万円)	11	317	307	305
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失(△)(百万円)	△390	181	165	196
1株当たり四半期(当期) 純利益又は1株当たり(円) 当期純損失(△)	△20.11	9.34	8.50	10.10
総 資 産(百万円)	16,773	16,849	16,686	16,821
純 資 産(百万円)	13,991	14,171	14,223	14,329
1株当たり純資産額(円)	720.88	730.18	732.86	738.33

株式の状況 (2019年9月30日現在)

- (1) 発行可能株式総数 60,000,000株
(2) 発行済株式の総数 21,076,154株
(3) 株 主 数 23,566名
(4) 大 株 主 (上位10名)

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
有 限 会 社 佐 々 興 産	2,138 千株	11.02 %
愛 眼 共 栄 会	981	5.06
愛 眼 従 業 員 持 株 会	791	4.08
佐 々 栄 治	616	3.18
下 條 三 千 夫	493	2.55
佐 々 千 恵 子	442	2.28
下 條 謙 二	401	2.07
佐 々 善 二 郎	375	1.94
日 本 マ ス タ ー ト ラ ス ト 信 託 銀 行 株 式 会 社 (信 託 口)	369	1.91
下 條 豊 彦	322	1.66

(注) 持株比率は、自己株式(1,668千株)を控除して計算しております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前期末 (2019. 3. 31現在)	当第2 四半期末 (2019. 9. 30現在)	科 目	前期末 (2019. 3. 31現在)	当第2 四半期末 (2019. 9. 30現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	8,691	8,717	流動負債	1,909	1,961
現金及び預金	5,414	5,332	支払手形及び買掛金	641	567
受取手形及び売掛金	970	1,017	未払法人税等	105	156
商品及び製品	2,078	2,078	賞与引当金	86	123
原材料及び貯蔵品	27	33	その他	1,075	1,114
その他	204	258	固定負債	553	530
貸倒引当金	△2	△2	繰延税金負債	26	21
固定資産	7,994	8,104	再評価に係る繰延税金負債	6	6
有形固定資産	3,118	3,276	資産除去債務	329	330
建物及び構築物	1,015	1,080	リース債務	26	8
土地	1,887	1,878	その他	164	163
リース資産	0	0	負債合計	2,463	2,492
その他	215	317	純資産の部		
無形固定資産	29	63	株主資本	16,604	16,722
リース資産	21	13	資本金	5,478	5,478
その他	8	50	資本剰余金	6,962	6,962
投資その他の資産	4,847	4,764	利益剰余金	5,214	5,333
投資有価証券	932	908	自己株式	△1,050	△1,051
敷金及び保証金	3,289	3,244	その他の包括利益累計額	△2,380	△2,393
その他	624	611	その他有価証券評価差額金	63	53
資産合計	16,686	16,821	土地再評価差額金	△2,471	△2,471
			為替換算調整勘定	26	24
			純資産合計	14,223	14,329
			負債純資産合計	16,686	16,821

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第 2 四半期(累計) (2018. 4. 1~2018. 9. 30)	当第 2 四半期(累計) (2019. 4. 1~2019. 9. 30)
売上高	8,544	8,399
売上原価	2,698	2,610
売上総利益	5,846	5,789
販売費及び一般管理費	5,599	5,514
営業利益	246	274
営業外収益	76	61
営業外費用	22	30
経常利益	299	305
特別利益	—	1
特別損失	34	27
税金等調整前四半期純利益	265	279
法人税、住民税及び事業税	69	83
法人税等調整額	0	△0
法人税等合計	69	83
四半期純利益	196	196
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	196	196

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第 2 四半期(累計) (2018. 4. 1~2018. 9. 30)	当第 2 四半期(累計) (2019. 4. 1~2019. 9. 30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	567	417
投資活動によるキャッシュ・フロー	199	△363
財務活動によるキャッシュ・フロー	△117	△132
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	648	△79
現金及び現金同等物の期首残高	2,249	2,662
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,898	2,583

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社の概況 (2019年9月30日現在)

商号	愛眼株式会社
本社設立	大阪市天王寺区大道四丁目9番12号 1961年1月11日
資本金	5,478百万円
主要な事業内容	当社グループは、眼鏡・サングラスその他関連商品を取り扱う眼鏡専門店チェーンと写真館を展開しております。
従業員数	730名 (ほか平均臨時従業員数417名)
店舗数	眼鏡店 229店舗 写真館 3店舗
連結子会社	2社

役員 (2019年9月30日現在)

取締役会長	佐々栄治
代表取締役社長	下條三千夫
取締役	菅野忠司
取締役	下條謙二
取締役	佐々昌俊
取締役	森重洋一
取締役	山田吉隆
常勤監査役	叶雅文
監査役	吉岡一彦
監査役	明石敬子

- (注) 1. 森重洋一及び山田吉隆の両氏は、社外取締役であります。
2. 吉岡一彦及び明石敬子の両氏は、社外監査役であります。

株主優待

3月31日及び9月30日現在、当社の株式を次のとおりご所有の株主様に対し、株主優待割引券を贈呈します。

[メガネ]	・100株以上500株未満ご所有	30%割引券1枚
	・500株以上ご所有	30%割引券2枚
(但し、特別限定品は20%割引)		
[補聴器]	・100株以上ご所有	10%割引券1枚
(但し、特別限定品は除く)		

株 主 メ モ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	(1) 定時株主総会・期末配当 3月31日 (2) 中間配当 9月30日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所 (郵便物送付先)	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
(インターネットホームページURL)	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告の方法	電子公告 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
上場証券取引所	東京 市場第一部

<ご注意>

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用していなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

ホームページアドレス <http://www.aigan.co.jp>